

歴史に学びつつ、時代が求める新展開を

日比野 正己

ひびの まさみ
長崎純心大学人文学部
本誌編集委員

新展開はフロンティア

本誌が「福祉のまちづくり」関係の特集するのは4度目である。最初は1975年の「障害者の生活空間と発達保障」であり、つぎは1986年の「障害者と交通権」、さらに1999年の「福祉のまちづくりとバリアフリー」である。そして2005年の「福祉のまちづくりの新展開」となる。99年をのぞけば、1975年からほぼ10年ごとに特集を組んできたが、それは本誌の主な読者が教育・心理関係であるため、福祉のまちづくりの展開と課題を適切に提供するためともいえる。

今回の特集を「福祉のまちづくりの新展開」としたのは21世紀初の企画だからである。私たちは、現在、20世紀からの転換期に生き、働き、活動している。「福祉のまちづくり」ではどのような展開があったのか。兆候はなんだろうか。とくに障害者問題研究との関係において、どのような展開があるのだろうか。「展開」とは過去へではなく未来への発展でありフロンティアでもある。展開に「新」を付けて強調したのは、歴史的な転換期でこそ、何か新しいものを発見し、未来への希望をつかみたいという切望からである。

論文構成

主要論文は5編であるが、その関係は次のようである。

第1の「21世紀の都市・国土政策と福祉の

まちづくり」(本多論文)は、「福祉のまちづくり」をおもに巨視的に政策の歴史を踏まえて論じたものである。まちづくりの主体である生活者の立場から展望したものであり、新展開への示唆に富む。

第2の「宮崎市における福祉のまちづくりの推進について」(岩浦論文)は、90年代から各自治体で展開されている先進例から「九州一の健康福祉都市」を目標とする宮崎市の実践である。とくに福祉のまちづくり条例は日常の生活圏を重視した先駆的取り組みである。

第3の「斜面地特性に応じた安心安全のまちづくり」(平野・辻村論文)は、坂と階段の町という大きな「バリア」を有する長崎市で自発的に生まれた「長崎斜面研究会」(現在はNPO法人)が展開するユニークで多様な実践を論じている。

第4の「認知症になっても安心して住めるまちづくりをめざして」(佐々木論文)は、本誌では初のテーマである。「痴呆」から「認知症」への変更が明示するように、それは「認知障害」によって生ずる生活問題であり、高齢社会の進展により確実に増大する。障害者問題研究の方法と成果は認知症問題の解明に有効であると同時に、実は障害者問題研究の新展開にもなるのではないか。そのことは連載の「発達保障論をめぐる理論的問題」で藤本論文が適切に提起している。藤本文朗氏は1970年代から全障研で始まった「障害者とまちづくり」「発達保障とまちづくり」研究と実践の先駆者であるだ

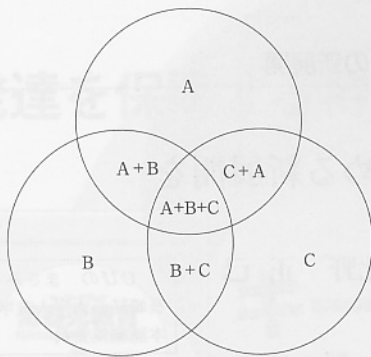


図 三語法

3つのキーワードで3つの円を描くと7つの関係(領域)になる。
なお、円の大小はキーワードの重要性により変化する。

けに、その提起は深く重い。

第5の「福祉のまちづくりと公共交通改善運動」(森論文)は、福祉のまちづくり運動の原点である「わたしも外へ出たい!」という願いを当事者運動と交通権思想の視点から1970年代から30年にわたる歴史を捉えたものである。

三問法と三語法

「^{さんまほう}三問法」で主要論文を見るとどうなるのか。三問法とは、人間・空間・時間の3つを総合的にとらえる筆者の方法(HM法)であり、たとえば認知症ケアでいえば、母の見守り型ケア、馴染みの空間によるケア、アクティビティ・プログラムによるケアとなる(日比野他, 2002)。今回の特集論文の関係は次のようになる。人間軸でいえば、どんなに重度の障害者であろうと“幸福”になるという福祉のまちづくりの原点であり、認知症高齢者の幸福保障が新展開の事例である(佐々木論文)。空間軸でいえば、マクロ的な都市・国土政策の展開(本多論文)、自治体での先駆的な展開(岩浦論文)、斜面地域固有の特性への展開(平野・辻本論文)となる。時間軸でいえば、1970年代からの公共交通改善運動(森論文)であり、先駆性でいえば石坂直行氏の実践(勝矢書評)や藤本論文も関係する。

もちろん人間・空間・時間は現実には一体と

して存在し展開するため、「福祉のまちづくり」研究は分析的と同時に総合的探求が重要となる。つまり1次元や2次元だけでなく3次元(立体的)の把握が必要となる。こうした視点から全障研運動(北海道と千葉の実践報告)や北欧での展開(小賀論文)も読み解くといいたいだろう。

じつは「福祉のまちづくり」という概念は「福祉」「まち」「づくり」という3つのキーワードからなる。三問法でいえば、「福祉」とは人間の幸福、「まち」はあるべき空間そのもの、「づくり」はプロセス(時間)といえる。

さらに筆者の研究法(HM法)には「三語法」があるが、それは3つのキーワードをもとに図解で展開する方法であり(図)、「福祉のまちづくり」でいえば、第1レベルは「福祉」「まち」「づくり」であり、第2レベルは「福祉+まち」「まち+づくり」「づくり+福祉」、第3レベルは「福祉+まち+づくり」となり、これらの関係を分析的かつ総合的に解明する方法である(日比野, 2003)。本号の論文も三語法で読み解くと、新たな発見があるのではないだろうか。

福祉のまちづくりの思想

最後に「福祉のまちづくり」の思想の意味(再確認)と今後の新展開にふれておこう。

「福祉のまちづくり」は、1970年代に日本の障害者運動と政策から生まれた言葉である。それは「障害者の生活圏拡大運動」とも呼ばれたが、生活圏と生活権の拡大は相互関係だからである。あるいは「障害者のまちづくり」とも呼ばれた。全障研全国大会で初めて「障害者のまちづくりをどうすすめるのか」の分科会が設けられたのは1973年の第7回大会(金沢大会)であり、全国的なまちづくり研究集会も継続して開催された。つまり全障研はわが国では早くから理論と実践を先駆的に展開してきた歴史をもつ。

全障研の発達保障論を学んで筆者が提唱した

「まちづくりの思想」は、1974年10月の東海四県車いす市民交流集会でつぎのように述べた(日比野, 1975)。^①福祉のまちづくりとは、障害者らの人間としての権利を総合的に保障すること、^②障害者を“鏡”にして改善することが「みんなの住みよいまちづくり」につながる、^③福祉のまちづくりとは、差別や偏見を無くするための社会の改善、である。3つの視点は、発達保障論という「個人の系」「集団の系」「体制の系」を念頭においたものである。運動論では、^①統一の基準づくり、^②あるべき姿から考える、^③悪政策を予防する、^④まちづくり協議会の設置、^⑤まちづくりは人づくり、である。こうした視点や運動論をふまえて本特集を読めば、30年間の成果と課題も理解しやすいだろう。このような「まちづくりの思想」を踏まえた30年近い研究成果は、筆者の社会福祉学博士論文(日比野, 1997)などに結実している。

福祉のまちづくり概念の展開

終わりに筆者の「福祉のまちづくり」の概念を紹介しておく。

第1.「福祉」とは辞書で引けば「幸福」の意味だが、語源は2000年も前に中国で生まれ、意味は「天寿を全うする喜びに与る」(一番ヶ瀬康子・長崎純心大学教授)という。それは人類の理想を実現する美しい言葉である。1989年に誕生した「日本福祉文化学会」(会長：一番ヶ瀬康子)は、「福祉の文化化」と「文化の福祉化」を融合した「福祉文化」を探求し実践をしている。筆者も「福祉文化論」などの講義やゼミ、さらに学会理事として探求しているが、「福祉」概念そのものが新展開の時代なのである。

第2. 本誌の特集「障害者の生活空間と発達保障」(1975)の論文「障害者とまちづくり運動」において「〈まちづくり〉は、人間中心のあたらしい〈まち〉を、自分たちの手でつくりあげていこうとする主体性・変革性・目的意識性をもつ。」と書いておいた。「まちづくり」も

日本で生まれた概念である(本多論文参照)。

第3. バリアフリーは1960年代に欧米で生まれた建築系専門用語だが、日本では「福祉のまちづくり」と「バリアフリー」は両輪のように1970～90年代に発展してきた(『平成7年版障害者白書』参照)。「バリア・フリー・デザイン」とは「あらゆるバリアをデザインの力で解決する」ことであり、「バリアからのフリー」は「福祉のまちづくりへのフリー」と連動した筆者独自の概念である(日比野, 1999)。現在は「福祉のまちづくり」+「バリア・フリー・デザイン」を融合した「福祉デザイン」を大学院で提唱し講義している。それは単なる輸入物の「バリアフリーデザイン」でも「ユニバーサルデザイン」でもない。

以上からわかるように「福祉のまちづくり」は日本で生まれ、30年もの歴史を有する独創的な概念と思想である。今後、日本だけでなく、とくに中国や韓国などが高齢社会へ急速に進展するため重要性を増すだろう。歴史をみれば、福祉のまちづくりの思想的源流のひとつが全障研の発達保障論にこそあり、いまや時代は新展開を求めている。

文 献

- 日比野正己(1975) まちづくりの思想。みんなのねがい, 2月号, pp.8-13.
- 日比野正己(1997) 福祉のまちづくり研究, HM研究所。[同書は次の著作等を含めて体系化した。
- 日比野(1978) 福祉のまちづくり, 水曜社。
- 日比野(1985) 交通権の思想, 講談社。
- 長崎バリア・フリー研究会編著(1985) バリア・フリー・デザイン, 長崎県他。なお、全国的「福祉のまちづくり研究会」(現在の「日本福祉のまちづくり学会」)の発足記念日に発刊した。]
- 日比野正己編(1999) 福祉のまちづくりの思想と展望。障害者問題研究, 27-1, pp.4-11.
- 日比野正己編(2003) 研究のすすめ方, 第7章 HM 法式研究法。阪急コミュニケーションズ。
- 日比野正己(2004) HM法と福祉デザイン。純心福祉文化研究, 第2号, pp.79-90.